

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第672号 2026年2月8日

## カトリックにおける「多様性の中の一致」

主任司祭 ミカエル鈴木 真

わたしは2020年に横浜雙葉学園の理事長職を拝命しました。

幼きイエスを母体とする「雙葉」は、国内に6つの姉妹校があります。横浜、四谷、田園調布、静岡、福岡、それに横浜のサンモール・インターナショナル・スクールです。年に一度、「姉妹校理事長会」があり、理事長たちが各姉妹校を回ります。コロナ禍はできなかつたようですが、2024年に復活しました。各姉妹校が持ち回りで会場となり、その会場校の校舎や授業を見学し、また各姉妹校間の情報共有をするのですが、わたしは2024年から、いくつかの姉妹校を見学する中で、それぞれの姉妹校の持つ特徴や、学習の仕方の独自性に驚かされています。幼きイエス会という共通の母体を持ち、また同じ校訓を持つ学校なのに、ここまで違いがあるのだな…と感じさせられました。

だからこそ、姉妹校との連携は、さまざまな発見や刺激があり、お互いに支え合って歩んでいます。姉妹校同士のいろいろな交流もあり、去年は「幼きイエス会姉妹校・教員フランス研修」が久々に行われ、全国の雙葉姉妹校から多くの先生方が「雙葉の源流をたどる旅」をされました。こうしたカトリック学校のつながりは、まさにカトリックならではのものだとな今更のように気付かされると共に、「多

様性の中の一致」という、第2バチカン公会議がもたらした教会観がある、とも感じました。

1962年から開催され、カトリック教会の近代化ともなった「第2バチカン公会議」では、世界に広がる教会のそれぞれの違いや特徴を重要視した上で「キリストによる一致」という、「多様性の中の一致」の教会観を打ち出しました。その際に引用されたのが「1コリント12:12～『一つの体、多くの部分』」です。多くの異なる部分によって、「キリストの体」が形づくられている。すべて違って、すべて大切。また各部分は互いに影響し合っている。よく言われる「みんな違って、みんないい」とか、またラグビーでも言われる「一人はみんなのために、みんなは一人のために」に通じるこの箇所は、わたしも大好きなところ。これこそ、まさに福音！と思いますが、カトリックは、さまざまところで、そして、特にカトリック学校という存在にも、この「多様性の中の一致」が実践されていることを実感しています。

教会には、いろいろな人がいて、みんな大切、それでいい。ただ、だからこそ難しい点も多々あるわけですが、「多様性の中の一致」こそが神さまの求められている共同体の姿であることをいつも心に刻みながら、これからも教会と学校に関わっていきたい、と思います。

## 横浜教区の通常聖年が閉幕



共同司式ミサ

教皇フランシスコが2024年5月9日(昇天の祭日)に公布された大勅書『希望は欺かない』(Spes non confundit)(ローマ書5章5)によって、2025年の通常聖年は、すべての地方教会の司教座聖堂において2024年12月29日の主日に開幕し、また2025年12月28日の主日に閉幕することが定められました。

この恵みの1年を巡礼や回心、祈りや慈善のわざなどの取り組みによって祝った私たちも、12月28日(聖家族の祝日)11時半のミサで深い感謝と神への賛美(テ・デウム)をもって締めくくりました。当日は穏やかな冬晴れの下、他小教区の信徒や修道者も交えて聖堂は満席となり、ラファエル梅村昌弘司教と司教館の司祭方、新子安教会のバリー・ケンズ師、鈴木真主任司祭とグエップ助任司祭の共同司式で執り行われました。

説教において梅村司教は、まず聖年のロゴマークの図柄が4大陸を象徴する4人の人物が連帯と友愛のうちに“希望の錨”である十字架を持って前進することを表していること、また緑色は希望の象徴であり、私たちが希望の巡礼者として歩みをすすめていくよう呼びかけていると話されました。さらに聖年の期間中開かれたローマの4大バジリカをはじめとする聖なる門の開扉は、イエスが言われた「私を通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」(ヨハネ14章6)ことを表しており、私たちが生命の門への思いを新たにできた。聖年の間いただいた免償は自分以外にも代願として煉獄の霊魂にも譲ることができることとされたことも大きな恵みであった。イエス自らが「主の恵みの年」を宣言されたように(ルカ4章16-19) 私たちも救いのわざの完成に向かって歩みをすすめていきました、と呼びかけられました。

ミサの最後には聖年賛歌『希望の巡礼者』が高らかに歌われて閉祭となりました。

(付記：来る2033年には、主イエスの受難と死と復活から2000周年を記念する特別聖年が祝われます)

(編集部：撮影・宮 裕一 文・渡邊敏行)

## ロザリオ会の2025年通常聖年を振り返って

私たちの山手教会は横浜教区唯一の指定巡礼聖堂であったので、多くの人々が訪れてくださいました。教会の集計によりますと、その数は29教会と1653人ということですが、個人で訪れた方々も多くおられるはずなので、もっと多いと思います。

私たちロザリオ会では有志を募っておもてなしにあたりました。日本人の信徒の方のみならず、外国人の方がとても多かったです。巡礼者は5月の連休の後ぐらいから急に増え始め、遠くからバスを仕立てていらっしゃる方、自家用車で来られる方、なんと徒歩で来られる方もいらっしゃいました。暑い中來られるので、私たちは、まず飲み物と小さなお菓子をご用意させていただきました。ご一緒にミサに与ることができました。それらは貴重な体験でした。この方たちに与えられている巡礼の恵みと全く同じ恵みを私たちも頂いているということをはっきりと感じたのです。昼食は、ミサの後にお弁当持参で食事される方も多かったです。中華街で観光と食事をされる方も多く、それはそれは、皆さんが楽しみにされていることでした。巡礼の恵みの他にも食事の喜びが与えられるなんて、この教会の立地ならではでしょう。

そして、我が山手教会は日本開国以来、横浜開港以来の歴史のある教会です。説明にあたる方々も別に準備されて、こちらもご苦労様でした。来られた方々も少なからぬ深い知識を得ることができ、きっと満足されたと思います。売店の「みこころコーナー」も平日にも関わらず、お店を開けてくださり好評でした。他にも記念品を作って販売できるようにして下さった方など、多くの方が協力し、一丸となって臨んだ聖年であったと思います。

特筆すべきは、私たちが一昨年前、巡礼で訪れた

焼津教会が希望の巡礼者となって訪れてくれたことです。私たちはささやかなお返しをすることができました。こうした交流も喜びであります。巡礼という崇高な目的のために、聖年の希望の炎を燃やしなが訪れてきてくれた巡礼者たちよ、皆さんの上に大きな祝福がありますように！

「幸せな人 神を畏れ 主の道を歩む者

神よ あなたによって奮い立ち 巡礼を志す人は  
枯れた谷を通り そこを泉に変え 初めの雨がそ  
こを祝福で覆う」(典礼聖歌102番 詩編84)

(ロザリオ会 桑原優子)

## 聖歌隊新年会

1月4日(日)午後6時より恒例の聖歌隊新年会が、昨年と同じ山下町のローマステーションで行われました。

司教様、グエップ神父様、事務所の原さんを含めて30人ほどの参加者となりました。窓の向こうにはイルミネーションされた氷川丸、さらにその奥にはベイブリッジの灯、そして、前日の満月と寸分違わぬ十六夜の月が、こうこうと輝いていました。初めてお招きしたグエップ神父さまのお祈り、隊長の三枝木さんのスピーチ、そして、司教様の乾杯で宴は始まりました。今年初めて参加された方もいましたが、この新年会では、いつも、かつて共に食卓を囲んだ司教様、神父様たち、聖歌隊員の人々のことを思わずにはられません。

いつものように10問クイズを用意しましたが、司教様と同級生のオルガニストの渡邊敏行さんが、サプライズの1問を出してくださり、さらに盛り上がりました。「今年はむずかしかったよ！」と司教様がおっしゃったので、反省して来年は少し趣向を変えてみようと思います。でも全てに回答者が出て、特に3人のオルガニストは皆さん景品をゲットしました。

みんなが自然に歌を披露してくださり、和やかな雰囲気になりました。特にコロナ禍以前に毎年行われていた「湘南地区聖歌隊交歓会」で歌った「兄弟のように」を、指揮者の村田さんご自分から「歌います！」と言われて歌われたことに感動しました。

もしかしたら天使もそっと気づかれないように、共に食卓に舞い降りて来て、私たちをまねて飲んだり食べたりしていたかもしれません。

「兄弟のように共にすむのは うつくしく うつくしく楽しいこと シオンの丘を潤すヘルモンの露のように 神は祝福で満たしとこしえの命を与えられる」(詩編133.1-3)

たとえ一片のパン、一杯のワインであっても共に光の輪の中で味わう時、私たちは喜びに満ちた救いの泉へと導かれて行くのだと思います。長年、聖歌隊で歌っていて幸せなことは、詩篇の言葉が身近に感じられるということです。繰り返し歌うことで言葉が具現化するのだと思います。感謝をこめて、これからも共に歌っていきたく願っています。



上. 乾杯 下. 梅村司教とともに

(文：聖歌隊 副隊長 山本 紀志子)

撮影：集合写真・業者 乾杯・土方芳人)

## ボーイスカウト・ガールスカウトのクリスマス会

2025年12月14日、ボーイスカウト34団とガールスカウト85団による合同クリスマス会が行われた。

会は2部構成で、第1部では「イエス様の誕生日」をテーマに祈りがささげられた。参加者は「あめのみつかいの」「もろびとこぞりて」などのクリスマス聖歌を歌い、厳かな雰囲気の中で祈りを共にした。また神父様からは、34団の新チーフを祝別し

ていただき、温かい励ましの言葉をいただいた。

第2部では、各隊と団委員による出し物が披露された。ビーバースカウト隊は元気な歌声を響かせ、カブスカウト隊は降誕劇とハンドベル演奏を発表した。ボーイスカウト隊はクイズ大会で会場を盛り上げ、ベンチャースカウト隊はクリスマスに関する雑学を紹介した。団委員による劇も加わり、笑顔あふれる時間となった。終盤にはキャンドルサービスが行われ、静かな灯りの中で一日を振り返った。最後のプレゼント交換では、スカウトたちの歓声があがった。

団委員による出し物は、「未来の世界」をテーマにした劇であった。未来には、自分が食べたいものを自動で調理してくれるロボットが存在し、AIが人間に代わって仕事をこなしてくれるという。夢のようでありながら、どこか現実味を感じさせる内容で、見る者に深い考察を促すものだった。

私は改めて思う。日々訓練を重ね、多くの経験と長い歴史を積み上げてきたボーイスカウトの活動は、過去を大切にしながら未来へと進んでいるのだと。今回のクリスマス会は、2025年前からこれから先の未来を見つめ直す、非常に貴重な時間となった。過去は未来が作るといったように過去を振り返りながら未来を紡いでいきたい。



上. ハンドベルの演奏 下. キャンドルサービス

(ボーイスカウト34団 ベンチャー隊 置田隆介)

## 2025年のクリスマス会

ガールスカウト85団です。今年もスカウト2人と

一緒に、11月30日(日)にJCCS(カトリックスカウト)の合同クリスマス集会に参加し、東京・松原の赤堤教会に伺って、カブリ神父様のお話を拝聴し、かわいい「ミニキャンドル」を作りました。

また、12月14日(日)には、ボーイスカウトとの合同でのクリスマス会にも参加して、元気なボーイスカウトたちと共に楽しみました。ガールは、「アドベントキャンドル」の意味をスカウトたちに説明しました。「希望」「平和」「喜び」「愛」の意味を心にとめて、日々過ごしていけたらとあらためて思いました。

みなさんに幸せがおとずれますように…、新スカウトが入団してくれますように願いながら…。

2025年の最後は、「主の降誕夜半ミサ」の受付奉仕で終わりにになりました。



キャンドルづくり

(ガールスカウト神奈川85団

団委員長 梅田啓子)

## 世界祈祷日 3月6日(金)

### 日本基督教団 横浜港南台教会で開催

世界祈祷日の祈りはキリスト教の教派を超えて全世界で行われます。今年のテーマは「わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」。対象国はナイジェリアです。



2026年 小冊子

昨年は通常聖年の中、山手教会が開催会場となり、鈴木真師から「その地で祈り、その地の方々と交わり、神とつながること。皆さんも今日、山手教会に来られ、私たちは一つになって祈りました」というお言葉をいただき、カトリックとプロテスタント諸教派が祈りで一つになりました。今年には日本基督教団の横浜港南台教会に出かけて

行き、ナイジェリアの人々のために教派を超えたすべてのキリスト者と一つになって祈りましょう。ぜひ、ご参加ください。開催時間、交通案内などは別途ご案内しますが、詳細は掲示板（事務所横）のポスターをご覧ください。

（世界祈祷日準備委員 竹之内 弘美）

## 「病者の聖体奉仕者の集まり」からのお願い

山手教会では、現在13人が司教様より任命を受けて、臨時聖体奉仕者として、各主日ミサでの聖体奉仕および高齢や健康上の理由で教会に来られない方にご聖体をお持ちする活動をしており、特に後者のために定期的に会合を持ち情報連携をしています。

今回は、後者の「病者の聖体奉仕」に関するご連絡とご依頼です。例年、晩夏から初秋に「敬老の祝福」のお祝いに合わせて、ご高齢の方にアンケートを実施し、ご聖体をお持ちする希望があるかをヒアリングしています。最近では、遠慮されているのか、あるいは入居施設の事情などで、希望される方の数が減っております。そのため、アプローチを変えて、毎週教会に来られている方に伺うことにしました。

具体的には、皆さんのお知り合いの方から、希望されていることを聞いたことがあれば、希望者のお名前、話を伺った時期、最近の状況などをお教えください。できれば、事務所にご連絡いただくと幸いです。鈴木神父様に直接、あるいは、典礼の柳川晋一宛てでもかまいません。もし情報提供者のお名前を開示されたく無ければ、その旨おっしゃってください。ご協力をよろしくお願いいたします。

（典礼委員会 委員長 柳川晋一）

## 新成人の祝福

1月11日11時30分、鈴木真師が司式されたミサの中で「新成人の祝福」が行われました。風が強く非常に寒い日でしたが晴天に恵まれ、スタンドグラスを通して聖堂に入る陽光はまぶしく、新成人を祝福するかのようでした。今年成人式を迎えられる方の祝福は拝領の後に行われました。鈴木師が「新しい

人生を歩むにあたり神があなたを守りますように聖霊を送り知恵と理解、判断と勇気、神を知る恵み、神を愛し敬う心を与えてください」（抜粋）と祝福されると真摯なお姿で受けていらっしゃいました。教会からのお祝いは祝別された聖書です。自己紹介によれば、大学で自然について勉強されているそうです。本日の共同祈願では『聖書と典礼』から新成人のために「神の呼びかけに耳を澄ませ、それぞれの使命にこたえることができますように」と皆で祈りました。今、勉強されていることが神への応えとなり、進む道が神の光に照らされますように。成人おめでとうございます。

新成人の祝福に参加された方（敬称略）

洗礼名：クリスチアナ

氏名：青木 鳴



鈴木師、ご家族とともに

（編集部：撮影・宮 裕一 文・竹之内 弘美）

## 4つの教皇バジリカ巡礼を終えて

聖年の幕開けの前に教皇フランシスコより2025年通常聖年公布の大勅書が出されました。もう一度読み返しながら年末に家族で企画したこの巡礼を一つひとつ綴りたいと思います。

20時間のフライトと時差ボケの中でやっとたどり着いたのは、サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂でした。悲しいことに扉は着く直前に閉ざされたことを知らされましたが、聖なる扉に手を触れ、巡礼の喜びを強く感じ、疲れも忘れるくらいに心が高鳴りました。聖堂に入ると中に続く列があり、教皇フランシスコのお墓に続いていました。何も飾られていない大理石に、フランシスコと名前だけが刻まれていました。聖年の大勅書の見出しに書かれた“フランシスコ、ローマ司教、神のしもべたちのし

もべ。この書簡を読む人々の心が、希望で満たされますように”の言葉が思い出され、聖年への祈りが伝わります。教皇様は事あるごとに、この教会でお祈りをささげられていたそうです。

次の日は、朝早くに司教座サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂に向かいました。この聖なる扉にも十字架につけられたキリストとマリア様の姿が彫られています。11月9日ラテラノ教会の献堂記念日は、この聖堂のことであり、福者・ペトロ岐部は1620年にここで司祭叙階式を受けられたそうです。時空を超えて、過去の人たちの祈りが聞こえてきそうな静けさの聖堂でした。

次に訪れたのは、サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂です。パウロの棺の上に建てられたとされていて、大きな神殿のような教会です。剣を持ったパウロ像がそれを守っているかのようでした。サン・ピエトロ広場に行ってみると、12月26日とあって世界中の人で身動きがとれないほどに混雑していました。聖なる扉の入り口には何百人もの人が並んでいて、まさにクリスマスにテレビに映し出されるサン・ピエトロ広場の光景です。その日は、あきらめ、次の日、広場が開く1時間以上も前から並び、開門と同時に誰もいない広場を抜け、扉にたどり着きました。感極まる瞬間でした。立ち止まり、手を触れ、感謝のお祈りもできました。ミサに参加し、無事巡礼終了です。

この扉にもキリストの受難のレリーフがあります。大勅書には“希望は、まさしく愛から生まれ、十字架上で刺し貫かれたイエスのみ心から湧き出る愛がその根本です”と



サン・ピエトロ大聖堂の聖なる扉



サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂の聖なる扉

あります。命をかけて信仰を貫く弟子たち、それを受け継ぐ歴代の教皇たち、信仰を忠実に守る信徒たち“希望は欺かない”その言葉を強く感じる巡礼でした。

帰国するや、アメリカがベネズエラを攻撃して大統領夫妻を拘束したニュースに耳を疑いました。一人ひとりの信仰と祈りが大きな希望となることを信じて、一日も早く終結することを祈りつつ巡礼の綴りをおしまいとします。(古谷浩子)

## 2026年1月度教会委員会議事 要約

日時：2026年1月11日(日) 午後1時～2時40分

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容（議事進行：宮委員長）

### 1 議事（審議・確認・検討事項） ※順不同

#### (1) 福島やさい畑の次回実施日について

- 3月1日に、いちごを中心とした福島やさい畑の販売を実施したい。

#### 【決定事項】

- ・承認する。

#### (2) 一般社団法人JLMM(旧・日本カトリック信徒宣教会)によるカンボジアグッズの販売について

- アジア・太平洋各国で地域の人々や現地カトリック教会を支援している一般社団法人JLMMによる胡椒やコーヒーなどのカンボジアのグッズ販売を、3月15日(日)の各ミサ後に実施したい。

#### 【決定事項】

- ・承認する。

#### (3) コンビーニ・ディ・コリスタのクリスマスコンサートについて

- 12月20日(日)にクリスマスコンサートを開催したい。
- 聖堂の使用について他団体と活動が重なる場合には、時間調整を行う。

#### 【決定事項】

- ・承認する。

#### (4) 駐車場誘導の警備会社への委託について

- 数社から見積もりを取得したので審議された。
- 当面は警備員を入れて状況を見たい。

## 【決定事項】

・ ケーズセキュリティ（株）に依頼することで承認する。

## (5) 年末年始の聖堂対応について

● 12月29日（月）から1月3日（土）は、ミサの時間以外の聖堂とホールは閉館の予定であったが、実態としては聖堂を開けて欲しいという依頼で司祭・信徒館のインターフォンが鳴ることが度々あったため、やむなく開館した時間帯があった。

● 来年に向けて対応を協議したい。

## 【決定事項】

・ 年末に再度検討する。  
・ 閉館については張り紙などの掲示を行う。

## (6) 今後の募金について

● セブ島向けの募金は1月末で終了する旨の連絡を受けたため、この募金は1月最終週までとし、月末に間に合うように募金する。

● セブ島向け募金終了に伴い、これまで行ってきたその他募金（ウクライナ、能登、ミャンマー向けなど）の今後の取り扱いについて検討されたい。

## 【決定事項】

・ セブ島向けの終了とともに、一旦すべての募金を終了し、新たな案件の発生時には再び募金活動を行うこととする。

## (7) 教会見学の依頼について

● 3月30日（月）に、アメリカのカトリック信徒が大型バスで教会見学にきたいという依頼があったので可否について審議されたい。

## 【決定事項】

・ バスの扱いなどの順守事項厳守をお願いした上で、承認する。

## (8) 2026年度配賦金について

● 2026年度配賦金は昨年同様としたい。  
● 寄付先の詳細などは、信徒の皆さんにも資料を共有し知ってもらおう取り組みをする。

## 【決定事項】

・ 承認する。

## 2 今後の活動、報告事項

## 【信徒大会について】

● 信徒大会資料のスケジュール確定に伴う決定事項として、大掃除は6月6日（土）及び12月5

日（土）に、新受洗者・転入者・改宗者歓迎会を5月10日（日）に行うこととする。

## 【4月度の第3地区全体会について】

● 第3地区共同宣教司牧委員会の第2回会議は山手教会が担当となる。日程は4月12日（日）午後3時より行う。

## 【コンサートの寄付金について】

● 2025年11月30日（日）に行われたコンビーニ・デイ・コリスタコンサートの寄付金が、能登半島地震災害義援金として日本赤十字社に寄付された旨の報告があった。

## 【2025年通常聖年の報告】

● 聖年の巡礼のおおよその人数を報告する。個人で来られた方を含めると2000人ほどが山手教会を訪れた。あわせて事務所販売分の聖年関連用品の収支も報告する。

● ロザリオについては引き続き販売を継続する。

## 【菊名教会へのストーブ貸出について】

● 菊名教会空調機故障に際して、山手教会から非常用のストーブを貸し出した。大変助かったとの報告を受けた。

● 菊名教会の空調機復旧は3月末頃を見込んでいる。復旧次第返却される。

## 【典礼委員会より】

● 1月17日（土）より、灰にする枝を回収する。  
● 2月18日（水）の灰の水曜日ミサは、日本語が11時30分より、英語が午後7時より行う。  
● 共同回心式は3月8日（日）とする。

## 【福祉委員会より】

● 福祉委員会では2月の信徒大会においてカフェを提供する。  
● 第3地区神の愛を証する力を育てる部門においては、教皇回勅『ラウダート・シ』をうけてのイベントを企画中である。

## 3 主任司祭から

● 6月12日（金）がイエスのみこころの日であるので、10時からミサを行う。  
● 2月のロザリオ会主催ミサは、鈴木師司式で2月6日（金）に行う。

## 4 次回教会委員会

2026年2月1日（日）午後1時～3時終了予定。  
(総務担当 斎藤 悠美子)

2026年2月・3月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
	答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
2月8日	年間第5主日	典99 ③④	典268 年間5A	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	村 松	竹之内	新井田	阿部(眞)	
					7:30	小 嶋	二 宮	田口(利)	神近(千)	
					* 11:30	佐 藤	遠 藤	室崎(理)	木原(眞)	
15日	年間第6主日	典75 ①④	典271 年間6A	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	手 塚	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
					7:30	渡 邊	末 澤	吉光(基)	間部(有)	
					* 11:30	米 沢	小 山	中山(峯)	上瀧(聡)	
18日	灰の水曜日	典6 ①②	典261 ③	ミサ曲A 典605~9	11:30	太 田	末 澤	池田(恵)	武田(登)	
22日	四旬節第1主日	典6①②,7①	典260 第1主日	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	村 松	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
					7:30	手 束	亀 井	東海林(正)	津久井(暁)	
					11:30	中 川	子どもとともにささげるミサ			
3月1日	四旬節第2主日	典46 ①③⑤	典260 第2主日	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	太 田	宮	工藤(元)	島田(節)	
					7:30	太 田	石 賀	武内(千)	武田(登)	
					* 11:30	手 塚	山本(紀)	後藤(由)	紀國谷	
8日	四旬節第3主日	典35 ①③④	典260 第3主日	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	村 松	竹之内	新井田	阿部(眞)	
					7:30	中 川	二 宮	田口(利)	神近(千)	
					* 11:30	米 沢	遠 藤	室崎(理)	木原(眞)	
15日	四旬節第4主日	典123 ①③④	典260 第4主日A	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	太 田	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
					7:30	渡 邊	末 澤	吉光(基)	間部(有)	
					11:30	太 田	子どもとともにささげるミサ			
22日	四旬節第5主日	典117 ①③④	典262 第5主日A	ミサ曲A 典605~9	前日pm5:00	渡 邊	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
					7:30	手 束	亀 井	東海林(正)	津久井(暁)	
					* 11:30	中 川	小 山	大島(寛)	上瀧(聡)	
29日	受難の主日 (枝の主日)	典176 ①②③④	詠唱 典317	ミサ曲A (典608,9)	前日pm5:00	村 松	宮	第一朗読 工藤(元) 朗読C 選定中	第二朗読 島田(節) 朗読A 選定中	
					7:30	小 嶋	時 久	第一朗読 梅田(啓) 朗読C 大濱(学)	第二朗読 稲葉(千) 朗読A 大濱(美)	
					* 11:30	手 塚	村田(義)	第一朗読 小松(美) 朗読C 兩宮(み)	第二朗読 萩原(恵) 朗読A 穴澤(千)	

編 集 後 記

共生する渡り鳥。山下公園前の浅瀬の海域では北極圏から越冬のためにやって来たスズガモ、オナガガモ、ハジロカイツブリ、クロガモなどが仲良く共生しています。安全を第一に考えれば渡り鳥たちは沖合にいたほうが良いはずですが、なぜか岸壁付近に集まっています。長年にわたり彼らを観察して来た小生の推測ですが、1分前後潜水して泳ぐハジロカイツブリの海中での動きを見ていて海藻がポイントではないかと思いました。海藻の周りを念入りに探っていたのです。海藻は太陽の光が届く浅瀬に生えており、小魚やエビ・カニなどのよい隠れ場所になっているからです。鳥たちがこの海域で存分に獲物を捕食して体力を蓄え、3月末には北の繁殖地へ帰ることを願っています。(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。